

今月の農家さん

前向きな努力は 次の笑顔に

野洲市高木
たなか せいぞう
田中 清藏さん (55才)



野洲市高木で、特産品の「近江のキャベツ」を育てている田中さん。

専業農家になった17年前は、米づくりが中心でしたが、「育てる楽しさ」を一年中味わいたいと、キャベツや黒豆の栽培を始めました。

最初は、雑草や湿気対策などで失敗したこともありましたが、経験を重ねた今は自分なりのコツをつかみ、少しずつ作付面積を増やしています。

田中さんは、農業の魅力を「自由と挑戦」だと

言います。自分の思いや発想を栽培に取り入れ、その結果が収量や味に出るのが楽しいそうです。

だからこそ、田中さんはインターネットでの情報収集やキャベツ畑の見回りなど、より農業を楽しむための準備に余念がありません。

最後に田中さんはこれから農業を始める人に向けて「農業はしんどい事もありますが、楽しむことが大切です。前向きに努力すれば人や情報が自然と集まり、次の笑顔に繋がります」とエールを送りました。

営農情報

品種	施用時期 (目安)	穂肥1回目	穂肥2回目	実肥(開花期)
		①②：2月中旬 ③：2月下旬	共通：3月上旬	共通：4月下旬
①農林61号		NK-C20：20kg 高度化成444：30kg 麦笑：40～50kg	NK-C20：10kg 高度化成444：20kg	NK-C20：20kg 高度化成444：20kg 尿素：10kg
②シロガネ		NK-C20：20kg 高度化成444：30kg 麦笑：40～50kg	NK-C20：15kg 高度化成444：20kg	NK-C20：20kg 高度化成444：20kg 尿素：10kg
③ミナミノカオリ		尿素：10kg	尿素：10kg	尿素：10kg

※ 10aあたりの施用量

◆小麦の穂肥について

2月中旬ごろ、麦は幼穂形成期に入り穂肥が必要になります。

昨年産小麦は、天気恵まれて旺盛に生育したため、予想より早く肥切れをおこす例もありました。今年も暖冬と予想されているため注意が必要です。

肥切れが長く続き、葉色が極端に薄くなると、なかなか元の色に戻りにくく、成長に影響します。そうなる前に穂肥を与えましょう。ただし、土壌が過湿だと穂肥の効果小さくなるため、しっかりと排水対策を行います。

また、小麦は穂ばらみ期以降に行う実肥も重要です。「麦パンチ」等の基肥一発肥料は、この時期の窒素溶出量が少ないため、容積重やタンパク質含量を向上させるためには実肥の施用が必要です。

◆道路をきれいに使いましょう

圃場での作業後、トラクターなどについた泥で道路を汚していませんか？泥はスコップなどを使い圃場内で落としましょう。

それでも道路に落ちてしまった泥は速やかに取り除き、通行者の安全に配慮しましょう。